

# 人はどのように 木を切ってきたか



有史以来、人がどのような道具や機械を使って木材を切削加工してきたか、また、近年、木工機械がどのくらい進歩しているかについてご紹介します。

石器時代にはすでに石製の鋸や斧が使われ、その後、銅・青銅製、鉄製の鋸や斧が使われるようになりました。

日本で現存する最古の鋸は、大陸から伝来した法隆寺の鋸(国宝)で、聖徳太子が使用したと言い伝えられています。

鎌倉時代まで日本には縦挽き用の鋸がなく、木材を縦挽きせずに割裂していたようです。

室町時代になると、縦挽き用の鋸である大鋸(おが)が使われるようになりました。

ところで、日本では鋸も鉋も引いて使いますが、他の国では押して使います。日本では、木を独特の方法で切るようになっています。

木材を切る機械が考えられたのは、1230年頃で水力で鋸を上下に動かすものでした。木工機械が発達したのは19世紀の初めで、軍艦を造船するのに大量の木材を切る必要があったからです。日本に初めて木工機械が輸入されたのは江戸時代末期で軍艦を造船するためでした。

その後、木工機械は外国製の模倣から国産化が進み、現在ではメカトロ化が進み、無人機も登場しています。



石製の斧



法隆寺の鋸



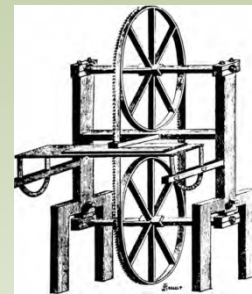
板を割裂している様子



大鋸



西洋の鋸



初期の  
帯鋸盤



メカトロ化されたツイン帯鋸盤